

「平成29年の犯罪情勢について」



警察庁生活安全局生活安全企画課 課長補佐 深見 幸治

1 はじめに

「犯罪情勢」というものを正確に把握するには、警察が犯罪の発生を認知した件数等の指標である「犯罪統計」、国民が治安に関して感じている「体感治安」、「サイバー空間の脅威」、「国際テロ情勢」等の犯罪リスクの増大に関するもの等を複合的に勘案する必要があると考えています。

そうした検討は、他稿に譲るとして、本稿においては、「犯罪統計」のうちでも刑法犯認知件数を中心に、平成29年の情勢をみていくこととします。なお、本稿中の意見に係る部分については、小職の私見であることを申し添えます。

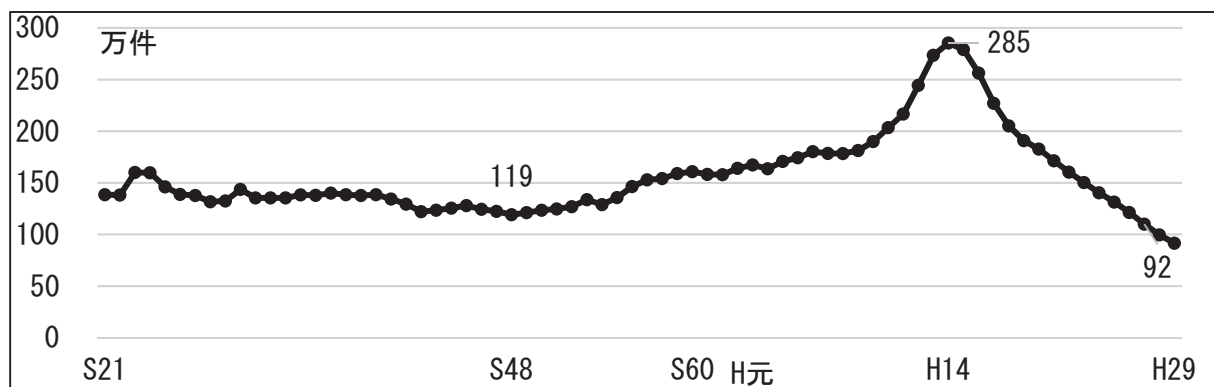
2 刑法犯認知件数の推移

我が国における昭和21年以降の刑法犯認知件数の推移は、昭和48年を底として、平成に入り顕著な増加基調になり、平成8年以降は戦後最多を毎年更新し続け、平成14年に約285万件を記録しました。

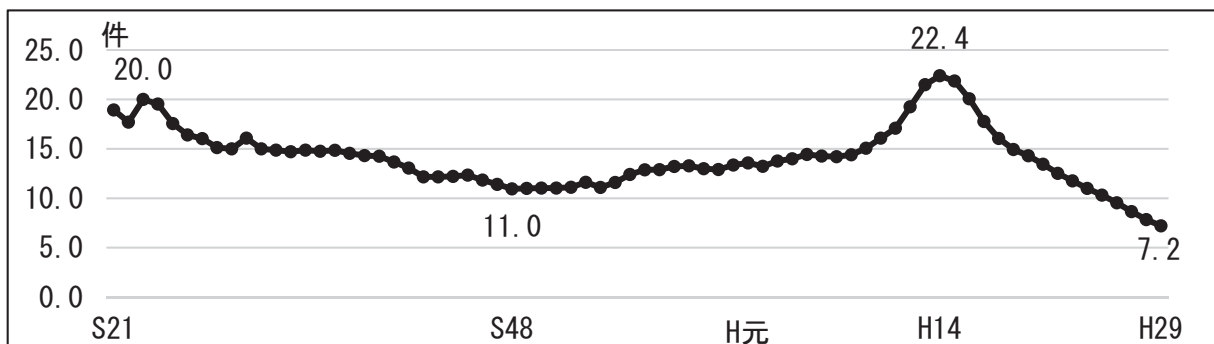
その後は、15年連続して減少を続け、平成29年には91万5,042件と3年連続で戦後最少を更新しました。

また、人口千人当たりの刑法犯認知件数においても、平成14年のピークから減少を続け、平成29年は7.2件と戦後最少の数値を更新したところです。

刑法犯認知件数の推移（S21～）



人口千人当たりの刑法犯認知件数の推移（S21～）



3 重要犯罪の刑法犯認知件数の推移

警察においては、刑法犯のうち殺人、強盗などの個人の生命、身体及び財産を侵害する度合いが高く、国民の脅威となっている犯罪を重要犯罪として重点的な対処を行っています。

過去10年の重要犯罪の発生状況をみると、31.6%減少しており、特に強盗は過去10年で56.9%減少するなど、顕著な減少をみています。

なお、平成29年の重要犯罪の検挙率は80.4%ですが、重要犯罪の検挙率が80%を超えるのは19年ぶりとなりました。

重要犯罪の刑法犯認知件数等の推移（H20～）

	H 20	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26	H 27	H 28	H 29
重要犯罪	15,922	15,271	14,878	14,144	14,581	14,596	14,051	12,565	11,546	10,888
殺人	1,301	1,095	1,068	1,052	1,032	938	1,054	933	895	920
強盗	4,298	4,535	4,051	3,695	3,691	3,324	3,056	2,426	2,332	1,852
放火	1,441	1,347	1,212	1,122	1,081	1,086	1,093	1,092	914	959
強制性交等	1,590	1,415	1,293	1,193	1,266	1,409	1,250	1,167	989	1,109
略取誘拐・人身売買	155	156	186	153	190	185	198	192	228	239
検挙率(%)	62.3	64.0	62.4	63.4	65.1	63.4	68.2	72.3	76.6	80.4

4 重要窃盗犯の刑法犯認知件数の推移

重要窃盗犯（窃盗犯のうち侵入窃盗、自動車盗、すり、ひったくりをいう。）の過去10年の発生状況をみると、57.4%減少しており、全ての手口で50%以上の減少をしているなか、特にひったくりは過去10年で84.9%減少するなど、顕著な減少をみています。

なお、検挙率は、過去10年間は50%前後で推移していますが、平成29年は過去10年では最高の55.3%でした。

重要窃盗犯の刑法犯認知件数等の推移（H20～）

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
重要窃盗犯	210,530	201,037	181,567	169,653	152,219	142,259	120,488	108,558	95,302	89,753
侵入窃盗	155,270	148,771	136,749	126,382	115,328	107,313	93,566	86,373	76,477	73,122
自動車盗	27,668	25,960	23,970	25,238	21,319	21,529	16,104	13,821	11,655	10,213
ひったくり	19,165	19,053	14,587	12,493	10,097	7,909	6,201	4,142	3,493	2,894
すり	8,427	7,253	6,261	5,540	5,475	5,508	4,617	4,222	3,677	3,524
検挙率(%)	53.5	50.8	47.7	48.0	49.8	47.5	51.5	52.6	54.6	55.3

5 住宅を発生場所とする侵入窃盗の発生状況

日本防犯設備協会に關係の深い罪種として、侵入窃盗のうち特に住宅を発生場所とする空き巣、忍込み及び居空き(以下「空き巣等」という。)の情勢をみると以下のとおりです。

(1) 住宅形態別発生状況

過去5年間に於ける空き巣等の発生について住宅の形態別にみてみますと、一戸建住宅が発生の約7割を占める傾向で推移しています。

住宅1万戸当たりの発生件数をみてみますと、平成29年は、一戸建住宅が4階建以上共同住宅の約4倍発生しました。

住宅で発生した空き巣等の侵入窃盗認知件数の推移 (H25-H29)

	H25	H26	H27	H28	H29
合計	57,574	47,944	45,924	39,090	36,881
空き巣	40,619	34,116	31,374	27,058	25,511
一戸建住宅	26,305	21,398	19,875	17,576	16,418
4階建以上共同住宅	3,866	3,306	3,048	2,612	2,427
3階建以下共同住宅	10,448	9,412	8,451	6,870	6,666
忍込み	13,683	11,098	12,169	9,828	9,470
一戸建住宅	11,212	9,226	10,515	8,296	8,179
4階建以上共同住宅	792	499	443	452	389
3階建以下共同住宅	1,679	1,373	1,211	1,080	902
居空き	3,272	2,730	2,381	2,204	1,900
一戸建住宅	2,512	2,079	1,770	1,728	1,485
4階建以上共同住宅	254	228	199	153	136
3階建以下共同住宅	506	423	412	323	279

(注) 空き巣……家人等が不在の住宅の屋内に侵入し、金品を窃取するもの。
忍込み……夜間家人等の就寝時に住宅の屋内に侵入し、金品を窃取するもの。
居空き……家人等が在宅し、昼寝、食事等しているときに住宅の屋内に侵入し、金品を窃取するもの。

住宅1万戸当たり空き巣等の侵入窃盗認知件数の推移 (H25-H29)

	H25	H26	H27	H28	H29
空き巣等侵入窃盗	11.1	9.2	8.8	7.5	7.1
一戸建住宅	14.0	11.4	11.2	9.7	9.1
4階建以上共同住宅	3.8	3.1	2.8	2.5	2.3
3階建以下共同住宅	12.0	10.7	9.6	7.9	7.5

(注) 住宅数は、国土交通省住宅経済関連データ中平成25年統計の居住住宅数を計上した。

(2) 侵入手段別発生状況

過去5年間に於ける空き巣等の発生について侵入手段別についてみてみますと、無締りとガラス破りが、発生8割以上を占める傾向で推移しています。

ガラス破りは、平成29年の発生件数中34.5%を占めていますが、特に空き巣では、無締りを上回る最大の件数であるなど、主要な侵入手段となっています。

いわゆるピッキング用具等の特殊開錠用具については、過去5年間も減少を続けておりますが、平成20年と比較すると1,294件減少し、減少率では89.7%となっています。

空き巣等侵入手段別認知件数の推移 (H25-H29)

	H25	H26	H27	H28	H29
認知件数(件)	57,574	47,944	45,924	39,090	36,881
無締り	25,995	22,265	21,591	18,996	17,302
ガラス破り	21,399	16,840	16,080	12,894	12,740
施錠開け	3,029	2,422	2,539	2,207	2,218
合かぎ	1,811	1,542	1,600	1,475	1,479
特殊開錠用具関係	260	212	212	161	148
その他の施錠開け	958	668	727	571	591
ドア錠破り	1,267	1,153	1,009	932	814
戸外し	302	254	225	221	174
その他	2,304	1,934	1,769	1,511	1,445
不明	3,278	3,076	2,711	2,329	2,188

6 治安に関する世論調査

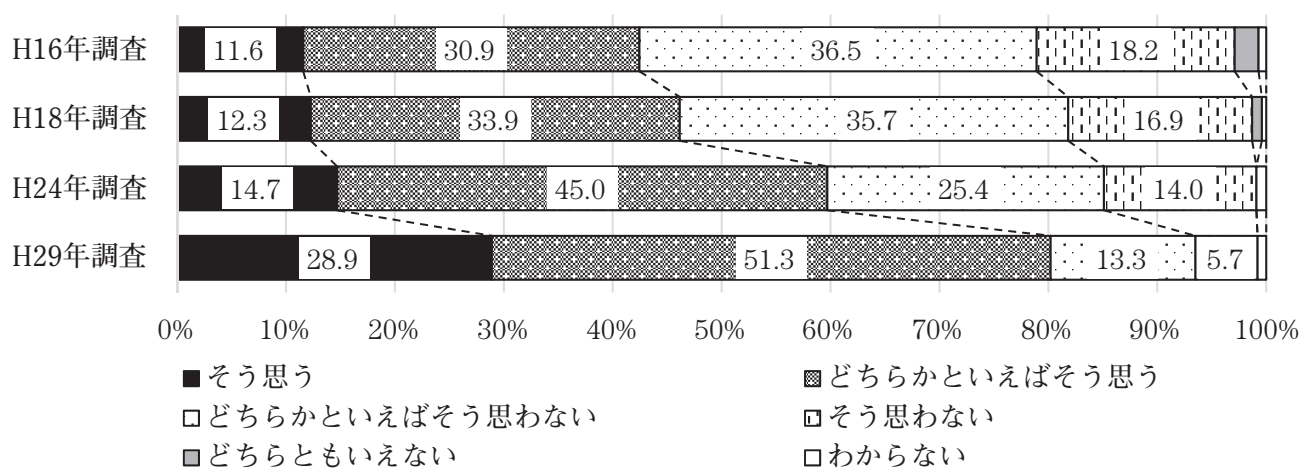
これまで、犯罪統計をみてきましたが、昨年、内閣府において5年ぶりに「治安に関する世論調査」を実施したところ、過去3回の調査と比較すると下記の表のとおりの結果となりました。

まず、「現在の日本が、治安がよく、安全で安心して暮らせる国だと思いますか。」という設問では、80.2%が「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と答え、前回調査からは約20ポイント、平成16年調査からは約40ポイントも国民の意識は改善しました。一方で、「ここ10年間で日本の治安はよくなったと思いますか。それとも、悪くなったと思いますか。」という設問では、過去の調査と比較して「よくなったと思う」又は「どちらかといえばよくなったと思う」という回答が増加しているものの、依然として約6割の人が「悪くなったと思う」又は「どちらかといえば悪くなったと思う」と回答しました。

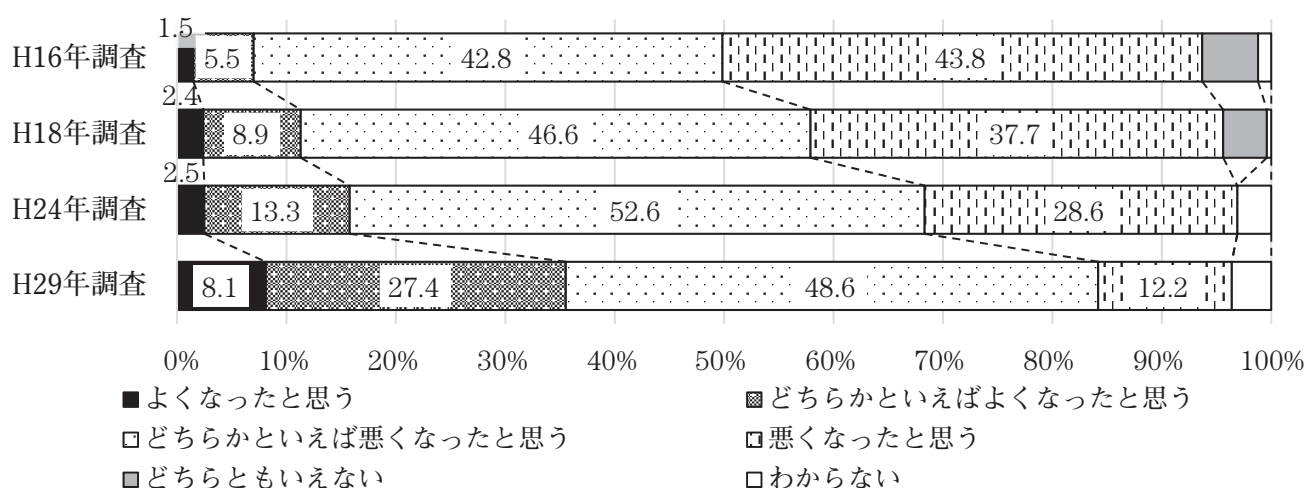
このように、昨年の世論調査においては、国民の体感治安の改善は一定程度みてとれましたが、その他の設問の回答から、インターネット利用犯罪や、振り込め詐欺など、新たな形態や非対面の犯罪に対する不安が増大していると推察されるところです。

治安に関する世論調査の結果

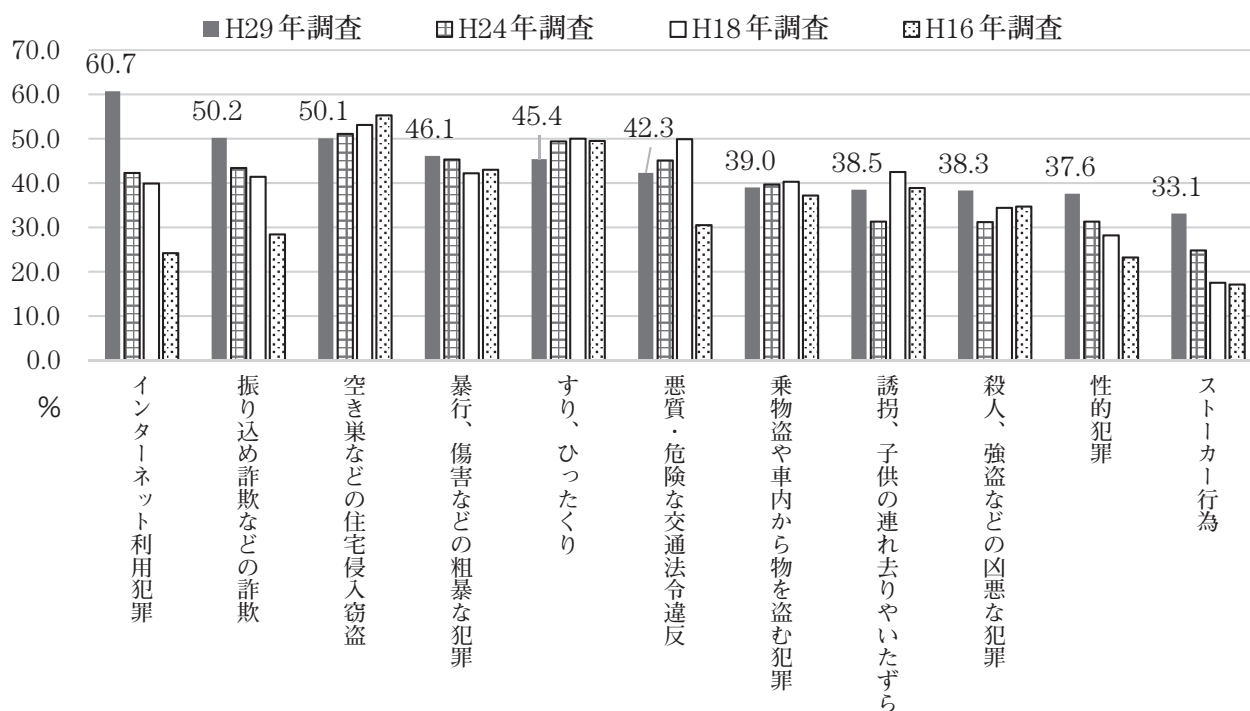
日本は安全・安心な国か



ここ10年の治安に関する認識



不安を感じる犯罪



(注) 30%以上の回答があった項目を上記グラフに計上した。

7 さいごに

我が国の犯罪情勢については、刑法犯認知件数がピーク時より大幅に減少するとともに、国民の体感治安も改善基調で推移するなどしているところです。

これは、平成14年以降、防犯カメラや防犯性能の高い建物物品等の普及促進、地域住民等による自主防犯活動の活性化等の官民一体となった的確な犯罪対策を推進してきた成果によるものと認識しているところです。

しかし、他方でサイバー犯罪、特殊詐欺、子ども・女性等の社会的弱者に対する犯罪等の発生が、国民の安全安心に対する脅威や不安を与えているなど、予断を許さない犯罪情勢にあります。

警察としては、今後とも、日本防犯設備協会の皆様をはじめ、官民一体となった幅広い犯罪抑止対策を推進し、我が国の治安水準の一層の向上に努めてまいります。